主要教科　［　算数・数学　］

採択基準	基本観点	521 学校では教えてくれない大切なこと (15) 数字に強くなる	535 さわって学べる算数図鑑
発行者・著者		旺文社 / 条川秀樹	学研 / 監修　朝倉仁
判型・ページ数・価格		15×21cm / 144ページ / 1,210円	22.5×28cm / 19ページ / 2,750円
1　学習指導要領に示す目標に沿い、その内容を適切に取り上げていること。	(1)　教科の目標達成に必要な内容	身の回りのいろいろな数字についての見方や量の感覚を学ぶことができる。量の比較から分数の考え方、グラフや表の見方等、生活場面を例に分かりやすく学習することができる。	算数の基礎となる足し算や引き算から立体の展開図までの内容を取り扱っている。文字や図だけではイメージしづらい内容も、本のしかけを触って体感を伴いながら理解につなげることができる。
2　内容の程度が、児童生徒の発達段階に適応していること。	(1)　発達段階のめやす(注1)	D　段階	C・D段階
	(2)　障害の状態、発達段階及び特性などへの配慮	生活に即した内容になっており、児童生徒にとってイメージしやすい内容となっている。	しかけをめくったり、引っ張ったり、具体物を組み立てたりすることで、抽象的な思考が必要な分数や立体の意味を理解しやすくしている。
3　内容の選択及び扱いが、学習指導を進める上で適切であること。	(1)　生活経験や興味・関心への配慮	身近な出来事を題材にしており、実際の生活場面と照らし合わせて考えることができる。買い物や旅行等の生活に役立つ数字の見方を学ぶことができる。	しかけをめくりたくなる発問や挑戦したくなるクイズがあり、児童生徒の興味を引く工夫がされている。
	(2)　主体性や創造性思考力、判断力、表現力等の育成	実際の生活場面に当てはめて、考察したり、数字を使って自分の考えを伝えたりする力を育てることができる。	分数やかけ算等の計算の方法を覚えるのではなく、しかけを操作して体感しながら算数の概念を理解することができる。
4　内容の構成・配列・分量が、学習指導を有効に進める上で適切であること。	(1)　系統性・発展性	身の回りにある様々な数字を多角的に捉えることで、複数の数量の関係を把握できるようにし、データの収集や分析を通して問題解決の方法を学ぶ学習へと発展させることができる。	かけ算、わり算、分数、図形や立体について学べる教材である。算数の基礎や概念の理解が深まれば、四則演算の応用問題や面積や体積の計算に発展することができる。
	(2)　全体の分量	年間を通して活用することができる。	しかけが100以上あるため、年間を通して活用することができる。
5　表記・表現が正確かつ適切であること。	(1)　文字、文章、挿絵	分かりやすいイラストで内容が構成されている。シンプルなコマ割りで文字情報が適切な量であり分かりやすい。	色彩が豊かで注目しやすい。説明文も端的でやさしい文章で書かれているため分かりやすい。
	(2)　図表、写真等の資料	グラフや表の読み取り方についての説明がされている。	使用されていない。
6　体裁や造本が適切であること。	(1)　色使い、ページレイアウトなど	すべてのページがカラー印刷で落ち着いた色調でまとめられており見やすい。テーマごとのページ数は適切である。	彩度の高い鮮やかな色が使用されている。図やイラストは適切な大きさで配置されており、しかけも操作しやすい。
	(2)　文字の大きさ、字間、行間	強調したい部分は、他の文章とフォントの種類や大きさを変えており、内容が読み取りやすい。	全体的に文章は文節で改行されており読みやすい。また、しかけの中に書かれている文字も適切な大きさである。
	(3)　用紙、製本、表紙	多色刷りのソフトカバーがかかっている。製本は適切である。	ハードカバーで製本されている。しかけを繰り返し操作しても破れにくい。
備考（発行年）		(H29)	(H27)